

南房総バスツアー2024



2024年9月

旅のチカラ研究所 植木圭二

9月の中旬、私と妻は旅行会社のバスツアーを利用して南房総に日帰り旅をしてきた。パワースポットを巡り、豪華海鮮丼を食べて南房総を満喫してきた。

■バスツアー

今回の南房総の旅は旅行会社の日帰りバスツアーを利用した。ツアーの名称は「高級食材を使用した7種の豪華海鮮丼のご昼食 房総2つのパワースポットめぐり海の幸大総力祭」になっており、長い割にはセンスのない名前が付いている。海鮮丼とパワースポットはわかるが、最後の“海の幸大総力祭”という言葉は全く意味不明だ。

横浜駅を出発したバスには46名の乗客が乗り、その乗客たちの世話をしてくれるのは若くて仕事をテキパキこなすようなキツメ目の美人添乗員、そしてハンドルを握るのは日焼けして健康そうな30代くらいの男性運転手だ。

そしてバスのラッピング塗装が何とも素晴らしい。東京都町田市にあるバス会社なので地元のJリーグチーム「町田ゼルビア」のチームバスのような装いをしている。

運転手の話では、チームバスによく間違えられるというが、それをかえって売りにしているようで、運転手も自慢そうに話している。



【町田ゼルビア風ラッピングバス】

■崖観音

最初に訪れたのは館山市の「崖観音」で、山の中腹の岩肌がむき出しになっており、その部分に観音堂が埋め込まれるように建っている。最初に観音像を彫って、その摩崖仏（まがいぶつ）を本尊にして後から観音堂を建てたのだろう。

約100段の階段を登って観音堂にたどり着くと、真っ青な館山湾が眼下に広がっている。海の向こうに伊豆大島がある。ここは房総半島南端付近なので伊豆大島までは直線で約50kmと近い。



【崖観音の観音堂】

観音堂に入ると天井には多くの天井絵があり、正面に観音像「十一面観世音菩薩」が格子戸の奥に置かれている。観音像は1m強の大きさで、残念ながらあまり鮮明ではない。おそらく観音像を彫った時からこの観音堂があった訳ではなく、しばらくは野ざらしだったのだろう。観音堂ができた後も、火災や地震、大雨などで観音堂は何度も再建されたと説明看板に書かれている。



【崖観音の観音堂の内部】

■海鮮丼

ちょっと早めの昼食は、大きな複合施設「ザ・フィッシュ」の中にあるレストランに案内される。ツアー名にある“高級食材を使用した7種の豪華海鮮丼”は既にテーブルにセットされており、地元産という伊勢海老とアワビが主役になっている。

伊勢海老はその名前からして本場の伊勢つまり三重県が漁獲高1位で、次に獲れるのが千葉県だという。そしてアワビも岩手県が1位で千葉県が2位だと添乗員が教えてくれた。添乗員の勉強熱心にも感心するが、千葉県の奮闘ぶりにも感心してしまう。

それにしても伊勢海老もアワビも、どちらもイメージしていたものより小ぶりだ。そもそも丼ぶりの器もやや小さいので、写真にすると豪華だが、現物でのインパクトはさほどない。それでも鮮度が良いから、美味しい。

まあツアー客は女性が多く、年齢層を考えると、量より質を優先した結果かもしれない。



【高級食材を使用した7種の豪華海鮮丼】

ここは海に面した複合施設なので、施設内には大きな土産物コーナーもある。食事の後に土産物店を覗くと、生きた伊勢海老やアワビを売っており、結構な値段になっている。

■濃溝（のうみぞ）の滝

2つ目のパワースポット「濃溝の滝」にやって来る。自然の洞窟の中を滝が落ちている。滝だから落ちていると書いたが、パッと見た目は流れているという表現の方がふさわしい。

付近の岩は柔らかい泥岩らしく、滝の水が長い年月をかけて岩をくり抜いたことは容易に想像できる。



【濃溝の滝】

添乗員の話では、3月と9月の年に2回だけ、早朝に光が差し込み、洞窟がハート形に映し出されるという。

幸運にもその写真が展望台の手すりに掲げてあるので早速写真を写真に撮る。

確かにハート形になっている。これは最初に見つけて写真を撮って SNS に紹介した人をほめるしかない。



【濃溝の滝がハート形になった写真】

■買い物ツアー

2つのパワースポットと海鮮丼というツアー目的の3カ所は終わってしまった。しかしそれでは時間が余ってしまうから買い物施設3カ所に寄るようになっている。

このようなバスツアーの参加者は買い物が楽しみという人も多く、大きな保冷バッグを持ってきている人もいる。何人かの乗客に聞くと、観光よりも買い物目的で来ていると言っていた。

帰りに寄った木更津市の「道の駅うまくたの里」は人気の施設で、3連休の中日なので駐車場待ちの車が長蛇の列をなしている。添乗員は、「ここには落花生のオブジェがありますよ」と言っていた。確かに建物の入口で大きな落花生のオブジェ「#お・ナッツ」が出迎えてくれる。

落花生はもちろんのこと、ここでも海産物がたくさん置いてある。さすがに生きた伊勢海老やアワビはないが、干物など水産加工品が多い。

嬉しいことに旅行会社から土産として鰯と金目鯛の干物セットがプレゼントされる。

私はこの時になってようやくツアー名称の最後の“海の幸大総力祭”という言葉の意味をおぼろげながら理解してきたような気になる。これら海の幸の買い物、そして干物セットのプレゼントのことを言っているようで、言われてみれば海の幸の大総力祭かもしれない。



【道の駅の落花生のオブジェ】

■旅の記録

実施は2024年9月15（日）の日帰り旅の行程を示す。

7時30分横浜駅集合、9時40分に館山市の「崖観音」、南房総市の「お百姓市場」に立ち寄り干物セットを受け取り、富津市の「ザ・フィッシュ」で昼食、君津市の「濃溝の滝」、木更津市の「道の駅うまくたの里」、そして帰途に「海ほたる」で休憩、18時に横浜駅で解散

費用はツアー代金13990円、その他に土産物や飲み物代、横浜駅までの交通費がかかった。